実践的・生ロクテクニック講座

第186回

コルグのAudio Gateにより手軽に新たな音世界を‥‥

DSDディスク作成・初試聴

寺門邦夫

2006年の初DSDレコーダであるKORG MR-1以来，MRシリーズをソフト面でサポートしている付属のDSDのファイル・フォーマット変換ソフトAudioGateですが，MR-2000S（連載180回）で，最新版ではDSDディスクやCD作成&読み込みの機能が加わり，大きく進化したことをお知らせしましたが，今回はDSD録音したソースからDSDディスクを作成して，DSDディスクに対応のSACDプレーヤでの再生までの流れをテストしましたので報告いたします．

DSDディスクで保存，再生が可能となった

MRシリーズでDSD録音した音質は，リニアPCMとは空気感の違う，高音質でしたが，録音以降はアナログに変換するなどして，その良さを犠牲にしての編集が必要でしたが，AudioGateでDSDディスク作成の機能が加わったことにより，DSDディスク対応のSONYのSACDプレーヤにて，DSDグレードでの再生が可能となり，DSDシステムがやっとシステムとして完成した感じです．加えてDSDソースは今まではPC上以外ではデータとしてしかバックアップできませんでしたが，今度は作品として，バックアップや保存がDSDディスクで可能となりました．

ソニーのSACDプレーヤ2機種が対応

DSDディスク対応のSONYのSACDプレーヤはSCD-XA5400ESと本年8月発売のSCD-XE800とPlayStation 3（PS3）の3機種がKORGのホームページのAudioGateのページに公開されています．

今回はMRシリーズでDSD録音したソースを最新版AudioGateでDSDディスクを作成し，SONYのSACDプレーヤSCD-XE800で再生しました．

MRシステムで扱う1bitAudioのDSDフォーマットはSACDのDSDIFF/2.8224MHzをはじめDSF，WADの3方式に対応しており，サンプルレートもスタンダードでSACD同様の2.8224MHz（CDの64倍のサンプルレート周波数）に加え，ハイエンド機のMR-1000，MR-2000Sには高音質5.6448MHzも備えています．

AudioGateで作成されるDSDディスクはSACD同様のDSDIFF/2.8224MHzで，音声2チャネル，ディスクはDVD-ROMと互換性のあるDVD-R，DVD-RW，DVD+R，DVD+RWを，最大容量は4GB以下でDVDディスクに作成できます．

DSDディスク作成の手順

DSDディスク作成に必要な機器ですが，DSD録音用のMR-1，MR-2，MR-1000，MR-2000Sなどの DSDレコーダと，これらのMRシリーズを購入すると付属するPCソフトのAudioGateに，AudioGateを走らすPCで，DSDディスクが作成できる書き込み型のDVDドライブ付きがあればOKです．

AudioGateはMac，Windows

◆AudioGateの起動画面．ソフトをインストールしたのちUSBでMRシリーズを接続

のいずれにも対応しており，MacはOSX G4 10.4以降対応していますが，G4/800MHz以上のIntel Macを推奨しており，手持ちのiMac Power PC G4/800MHzではスムーズに動きませんでした．WindowsのOSはXP，Vista，Windows7に対応しています．

AudioGateは進化しておりMR-1発売の1.0から，1.5経て，2.0となり，DSDディスクやCD作成および取込機能が追加されました．

DSDディスクの作成のスタートはPCへのAudioGateのインストールし，インストール終了後，MR機をPCにUSB接続．MR機がPCにマウントされたことを確認してからAudioGateを起動すると，「AudioGateのライセンス認証が完了しました．」とのメッセージが表示されればAudioGateが有効になり使用できます．

インストールに使用したAudioGateのシステムCDのバージョンは1.5で，バージョンアップが必要なので，KORGのホームページからダウンロードしました．バージョンアップもインストールとほぼ同様の手順です．10月15日のダウンロード時でバージョンは[2.0.3.2]となっていました．早速にAudioGateを試用してみまし

◆AudioGateが対応している音楽ファイル

	Windows	Mac		
ファイル・フォーマット	インポート	エクスポート	インポート	エクスポート
WAV	○	○	○	○
BWF	○	○	○	○
AIFF	○	○	○	○
DSDIFF	○	○	○	○
DSF	○	○	○	○
WSD	○	○	○	○
FLAC	○	○	○	○
WMA	○	○	○ (※1、2)	-
WMA Professional	○	○	○ (※1、2)	-
WMA Lossless	○	○	○ (※1、2)	-
AAC	○ (※1)	-	○ (※1)	○ (※1)
Apple Lossless	○ (※1)	-	○ (※1)	○ (※1)
MP3	○	○ (※3)	○ (※1)	-

(※1) QuickTime 7以降がインストールされている場合に対応

(※2) Flip4Mac WMVがインストールされている場合に対応

(※3) Windows Media Player 10以降がインストールされている場合に対応

◆筆者のPC上での操作画面

たが，MR-1000で初録音したJR只見線のC11やピアノやタンゴなどのDSD録音ファイルをPCに取込んでみました．

AudioGate画面は上段右から操作系，データ表示部，レベルメータ，下段は右からプレイリスト，編集表示，編集系ボタンとシンプルで，DSDファイルをプレイリストにドラック＆ドロップすれば，データ読み込み完了です．再生し，曲の開始ポイントでDIVIDEをクリック，曲のラストポイントでDIVIDEで1曲や1テーマごとに，前後の不要部分を削除すれは1曲完成です．分割ポイントの手直しはCOMBINE（併合）で元に戻して再度調整が可能など，直感的に使え，完全非破壊編集と自動保存機能によりデータは安全性が保証されています．

AudioGateはオーディオ・フォーマット変換ソフトですが，ほぼすべてのフォーマットに対応しており（詳細は連載180回参照），さらに編集機能やマスタリングのノーマライズやディエッサーなどを備えており，高価なDSD編集ソフトを使用しなくても手軽にDSDの編集ができるのは魅力です．またヘルプには36ページの取説が付属しており迷ったら直ぐ開けます．

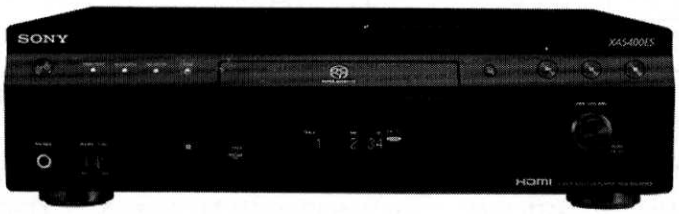
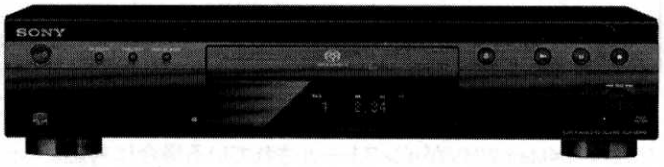
DSDディスクの再生

完成したDSDディスクの再生ですが，筆者の編集室にて，SCD-XE800をマランツDAC-1＋M-500に接続し，タンノイのスーパーレッドモニターで再生しました．DSDディスクを入れ，数秒後にアルバム1の個別トラックとして表示され，感動の初DSD再生となりました．

他の機種のテストでは，PS3では再生しましたが，SONYのSACDのSCD-XB9やTASCAMのDSD対応のDV-RA1000では再生できませんでした．最高音質の5.6448 MHzのソースはDSDディスク作成時に2.8224 MHzに変換されました．

音質ですが，SLの生録ではWAVだと明瞭度が確保できない細かな音や遠くの汽笛の音や山々に響くこだまのリアル感が，また眼前の通過音も圧倒的な空気感をもって再現されます．ピアノやタンゴでは，ホールの響きを大切に録音しており，見事に雰囲気を再現してくれました．

録音したMR-1000での再生比較では遜色はありませんでしたが，DSDディスクの方が落ち着いた雰囲気でしたが，今後の検証が必要です．

これで待望のDSDシステムが全線開通した感じで，今後はDSDを活かす新たなテーマを求めての録音と録りためたソースの作品化の楽しみがふえました．

◆DSDディスク対応のソニーSCD-XA5400ES SCD-E800